

# 2020年度決算説明

東洋紡株式会社

# 決算のポイント

## 2020年度実績

- ・新型コロナの影響大。フィルム、PCR検査試薬が堅調に推移し、増益
- ・当期純利益は、アクリル繊維の減損（▲78億円）もあり、42億円にとどまる

## 2021年度予想

原燃料価格上昇、防災・安全関連の費用増などの影響あるも、工業用フィルムの増産効果、PCR検査試薬の堅調等を織り込み、営業利益 270 億円、当期純利益 115 億円を予想

### 売上高

▲0.6%

(億円)

3,396

3,374

19年度

20年度

### 営業利益

+16.9%

228

267

19年度

20年度

### 親会社株主に 帰属する当期純利益

▲69.5%

138

42

19年度

20年度

# 決算サマリー | PL



(億円)

直近予想  
(21/02)

	19年度	20年度	増減		
			金額	率	
売上高	3,396	3,374	▲ 22	▲ 0.6%	3,350
営業利益	228	267	+39	+16.9%	230
(率)	6.7%	7.9%	-	-	6.9%
経常利益	180	207	+27	+14.8%	160
特別損益	17	▲ 151	▲ 168	-	▲ 152
親会社株主に帰属する当期純利益	138	42	▲ 96	▲ 69.5%	0
EBITDA* <small>* 営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)</small>	398	458	+60	+15.0%	
EPS (円)	155.1	47.3	-	-	
ROE* <small>* 当期純利益 ÷ 期首・期末平均自己資本</small>	7.8%	2.3%	-	-	
ROIC* <small>* NOPAT ÷ (有利子負債 + 純資産)</small>	4.5%	5.0%	-	-	
営業CF	443	350	▲ 92	-	
減価償却費	170	191	+21	+12.3%	190
設備投資	364	233	▲ 132	▲ 36.2%	230
為替レート (円/US\$)	109	106			106
国産ナフサ (千円/kl)	43	31			31

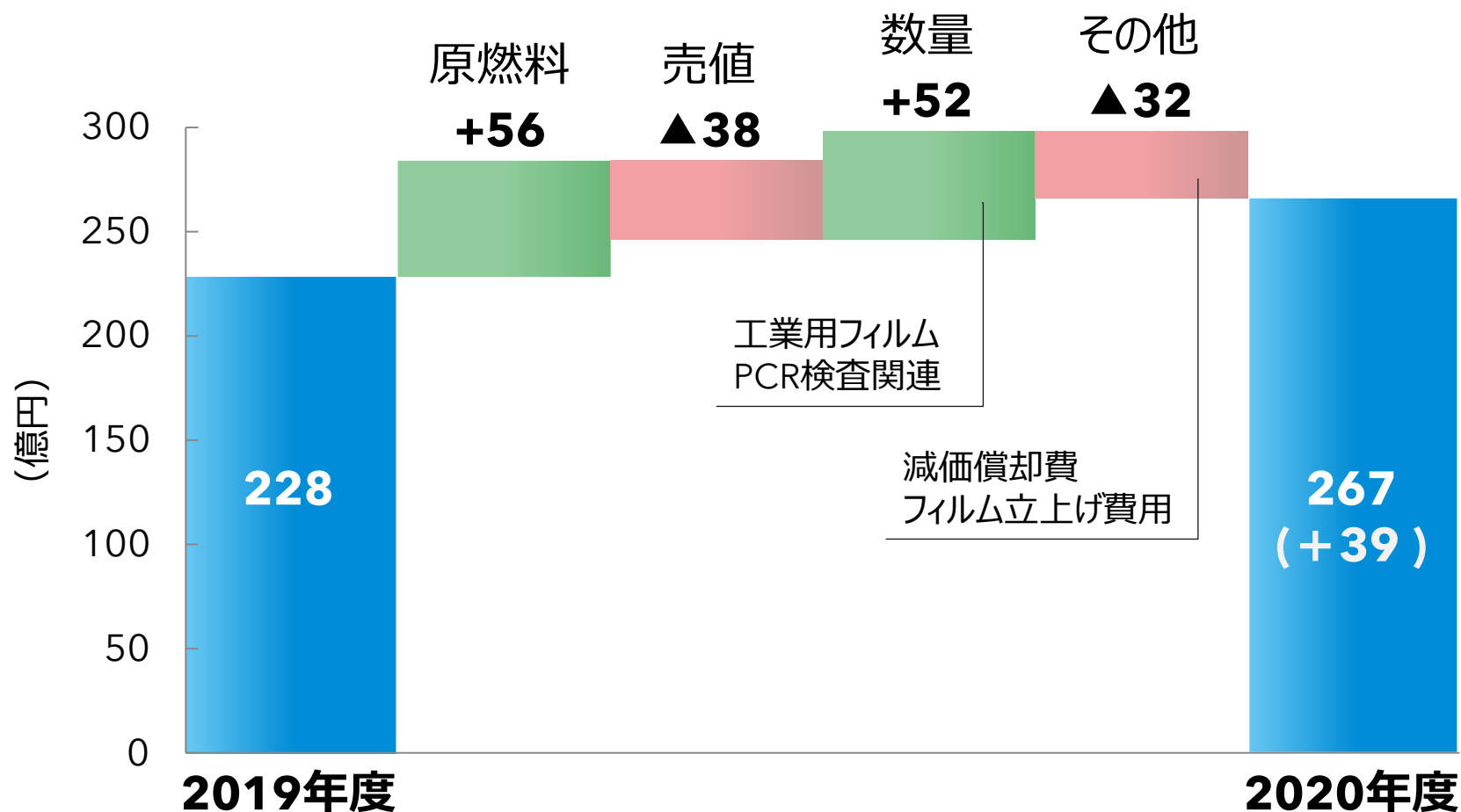
■ 営業外費用

操業休止費用 19 億円

■ 特別損失

アクリル繊維の減損 78 億円、火災関連費 19 億円

# 営業利益の増減要因



	2019年度			2020年度		
	上	下	通期	上	下	通期
為替レート (円/US\$)	109	109	109	107	105	106
国産ナフサ (千円/kl)	43	43	43	28	35	31

# 決算サマリー | BS

(億円)

	19/3末	(B) 20/3末	(A) 21/3末	増減(A)-(B)
総資産	4,610	4,889	<b>4,912</b>	+23
現預金	223	252	<b>347</b>	+94
たな卸資産	768	806	<b>763</b>	▲ 43
有形固定資産	2,085	2,315	<b>2,246</b>	▲ 68
純資産	1,812	1,826	<b>1,886</b>	+60
自己資本	1,766	1,779	<b>1,857</b>	+78
うち利益剰余金	519	619	<b>644</b>	+24
非支配株主持分	46	47	<b>29</b>	▲ 18
有利子負債	1,648	1,751	<b>1,870</b>	+118
D/E レシオ	0.93	0.98	<b>1.01</b>	-
Net D/E レシオ* <small>* (有利子負債－現預金) ÷ 自己資本にて算出</small>	0.81	0.84	<b>0.82</b>	-

# 決算サマリー | セグメント別

(億円)

	売上高		営業利益			直近予想 (21/02)
	19年度	20年度	19年度	20年度	増減	
フィルム・機能マテリアル	1,271	<b>1,528</b>	146	<b>200</b>	+54	190
モビリティ	439	<b>366</b>	▲ 7	<b>▲ 16</b>	▲ 9	▲ 22
生活・環境	1,284	<b>1,091</b>	59	<b>44</b>	▲ 16	33
ライフサイエンス	255	<b>271</b>	38	<b>45</b>	+7	39
不動産・その他	146	<b>118</b>	26	<b>23</b>	▲ 3	22
消去・全社	-	-	▲ 34	<b>▲ 30</b>	+5	▲ 32
合計	3,396	<b>3,374</b>	228	<b>267</b>	+39	230

※当年度より報告セグメントの区分を変更しており、19年度は、変更後の区分に組み替えた数値としています。



(億円)

	19年度			20年度			増減	
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	金額	率
売上高	599	672	1,271	738	791	1,528	+257	+20.2%
営業利益	73	73	146	87	113	200	+54	+37.3%
(率)	12.2%	10.8%	11.5%	11.8%	14.3%	13.1%	-	-

## 包装用フィルム

- 新型コロナウイルス感染症拡大により、業務用は減少も、巣ごもり需要あり
- 火災事故により、一部の製品販売が減少
- 環境意識の高まりにより、環境対応製品が販売を伸ばす

### 環境に配慮した包装用フィルム

- ・リサイクル樹脂使用比率80%以上のフィルム“サイクルクリーン”など
- ・2020年度は、約 5 %増収。
- 包装用フィルムに占める割合は、約 20 %に



# フィルム・機能マテリアル



## 工業用フィルム

### “コスモシャインSRF”

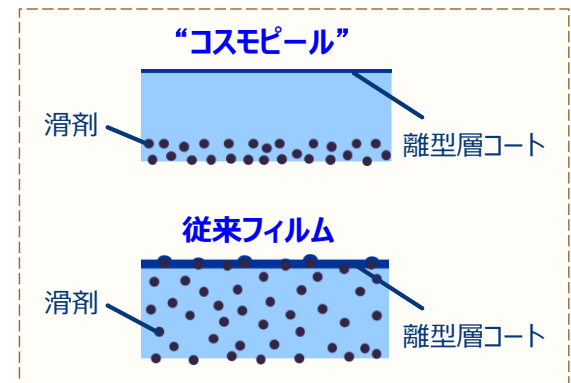
- ・非吸湿性、耐久性に優れ、大型テレビ向け中心に拡販
- ・新ライン稼働(2020年7月～)、生産性向上により、約 30 %増収

### セラコン用離型フィルム“コスモピール”

- ・車載用途が急回復、新ライン稼働により、約 20 %増収

### 東洋紡フィルムソリューション（株）を吸収合併

- ・2021年4月1日 吸収合併
- ・両社の強みを融合し、シナジー効果発揮へ



## 機能マテリアル

- 工業用接着剤“バイロン”、ポリオレフィン用接着性付与剤“ハードレン”は、3 Q以降、自動車用途など回復





(億円)

	19年度			20年度			増減	
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	金額	率
売上高	222	217	439	150	216	366	▲ 73	▲ 16.7%
営業利益	▲ 4	▲ 3	▲ 7	▲ 13	▲ 3	▲ 16	▲ 9	-
(率)	-	-	-	-	-	-	-	-

世界の自動車生産の復調に伴い、下期は回復するも、  
上期までの自動車減産の影響を補えず

## エアバッグ用基布

- 下期は需要回復も、4Qは原料逼迫もあり、苦戦続く

## エンジニアリングプラスチック

- 下期は、国内外の需要が回復するも、上期の販売減を補えず



(億円)

	19年度			20年度			増減	
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	金額	率
売上高	638	646	1,284	502	590	1,091	▲ 193	▲ 15.0%
営業利益	24	35	59	18	26	44	▲ 16	▲ 26.3%
(率)	3.8%	5.4%	4.6%	3.5%	4.4%	4.0%	-	-

## 環境ソリューション

- VOC処理装置・エレメントは、LIBS工場向けの出荷堅調

## 不織布

- 機能フィルターは、空気清浄機やマスク向けの販売は堅調も、事務機器向けが苦戦

## 繊維機能材

- 衛材用のポリエステル短繊維、寝具向け“ブレスエア”は、堅調
- 高強力ポリエチレン繊維“ツヌーガ”は、工場向け安全手袋用が減少

## 衣料繊維

- 店頭販売の不振により、スポーツ、インナー他、大幅減
- アクリル繊維は、市況悪化に加えコロナ影響大で苦戦

	19年度			20年度			増減	
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	金額	率
売上高	125	130	255	124	147	271	+15	+6.1%
営業利益	20	18	38	16	29	45	+7	+18.9%
(率)	16.1%	13.7%	14.9%	12.9%	19.8%	16.7%	-	-

## バイオ

- PCR検査用試薬、遺伝子検査装置などは、販売を大きく伸ばす。  
2021年2月から、生産量倍増
- 新製品“GENECUBE”（モデルC）
- 生化学診断薬用原料、一般検査は振るわず



## メディカル

- 透析用中空糸膜は、出荷堅調

## 医薬

- 操業が一部停止した影響により、苦戦

### “GENECUBE”（モデルC）

- ・最大12検体、4項目 同時測定可能
- ・最短25分で新型コロナウイルスを検出
- ・2021年4月より販売開始
- ・プール検査法にも展開

# 2021年度業績見通し



(億円)

	20年度	21年度	増減	
	実績	見通し	金額	率
売上高	3,374	<b>3,600</b>	+226	+6.7%
営業利益	267	<b>270</b>	+3	+1.3%
(率)	7.9%	<b>7.5%</b>	-	-
経常利益	207	<b>220</b>	+13	+6.2%
特別損益	▲ 151	<b>▲ 50</b>	-	-
親会社株主に帰属する当期純利益	42	<b>115</b>	+73	-
EBITDA	458	<b>470</b>	+12	+2.6%
EPS (円)	47.3	<b>129.5</b>	-	-
減価償却費	191	<b>200</b>	+9	+4.7%
設備投資	233	<b>310</b>	+77	+33.3%
配当 (円)	40.0	<b>40.0</b>	-	-
為替レート (円/US\$)	106	105		
国産ナフサ価格 (千円/kl)	31	44		

# セグメント別見通し

(億円)

	売上高		営業利益		
	20年度 実績	21年度 見通し	20年度 実績	21年度 見通し	増減
フィルム・機能マテリアル	1,528	<b>1,680</b>	200	<b>200</b>	0
モビリティ	366	<b>390</b>	▲ 16	<b>▲ 14</b>	+2
生活・環境	1,091	<b>1,120</b>	44	<b>46</b>	+2
ライフサイエンス	271	<b>290</b>	45	<b>53</b>	+8
不動産・その他	118	<b>120</b>	23	<b>23</b>	0
消去・全社	-	-	▲ 30	<b>▲ 38</b>	▲ 8
合計	3,374	<b>3,600</b>	267	<b>270</b>	+3



# 新・経営方針

## 【経営のミッション】

企業理念（順理則裕：なすべきことをなし、ゆたかにする）の実現を通して、企業価値を向上させること

## 【めざす姿】

素材+サイエンスで人と地球に求められるソリューションを創造し続けるグループ

社会の課題解決に貢献する会社  
持続的に成長できる会社  
現場が主役

2025中期経営計画

「サステナブルビジョン2030」

## 【現状認識】

- ・フィルム成長実現も、構造改革の価値観を払拭できず
- ・過去10年間業績・企業価値横ばい
- ・製造業としての信頼に揺らぎ

**今こそ「変革の時」**  
(経営チームで危機感共有)

## 【経営方針】

**持続的な成長に向けて、経営基盤を作り直す**



# 経営課題

## (1) 信頼の回復 (最優先課題)

- ① 安全・防災・品質保証の徹底
- ② リスクマネジメント強化

## (2) 事業ポートフォリオの組み換え

- ① 拡大事業への重点投資 (フィルム、ライフサイエンス、環境)
- ② 安定事業の成長余地見極め
- ③ 改善事業は、改革マスタープラン実行

## (3) 未来への仕込み

- ① 有力テーマの事業化加速とみらいテーマ設定
- ② DX戦略策定と先行事例づくり
- ③ カーボンニュートラルの工程明確化

## (4) 土台の再構築

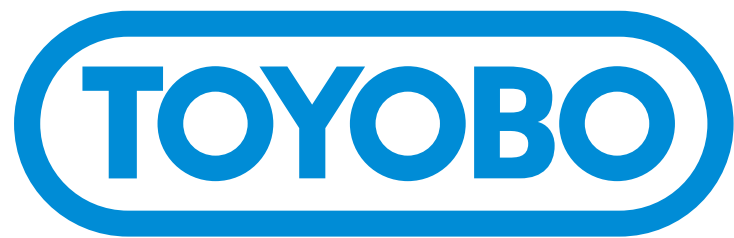
- ① 人材
- ② 風土改革・組織開発
- ③ 事業インフラ

# ご注意



本資料中の見通しや目標等、将来に関する記載事項は、本資料作成時点において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後の種々の要因によって、本資料の記載事項と異なる場合がありますことをご了承ください。

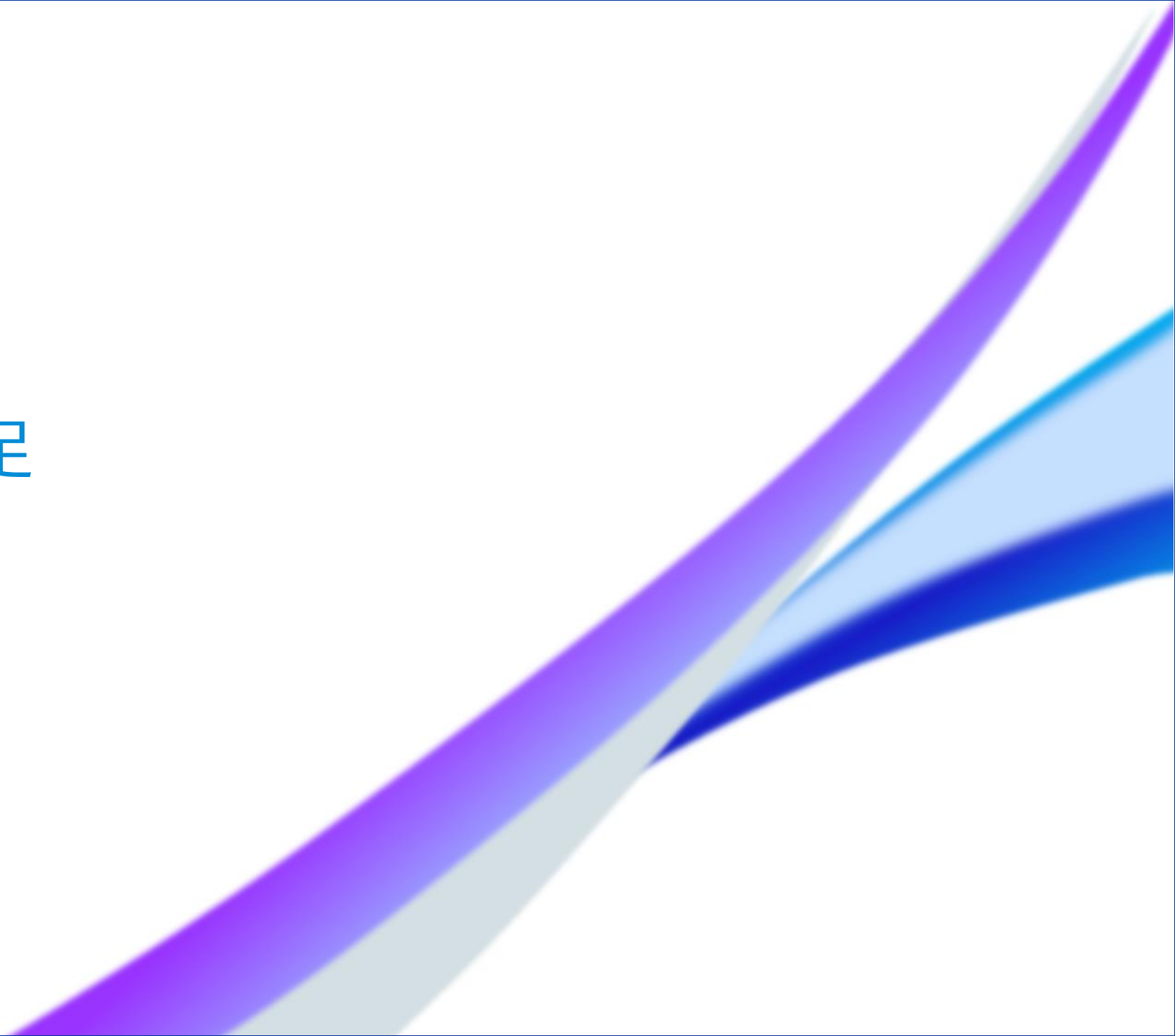
東洋紡株式会社



All Rights Reserved



補足



# セグメント別情報



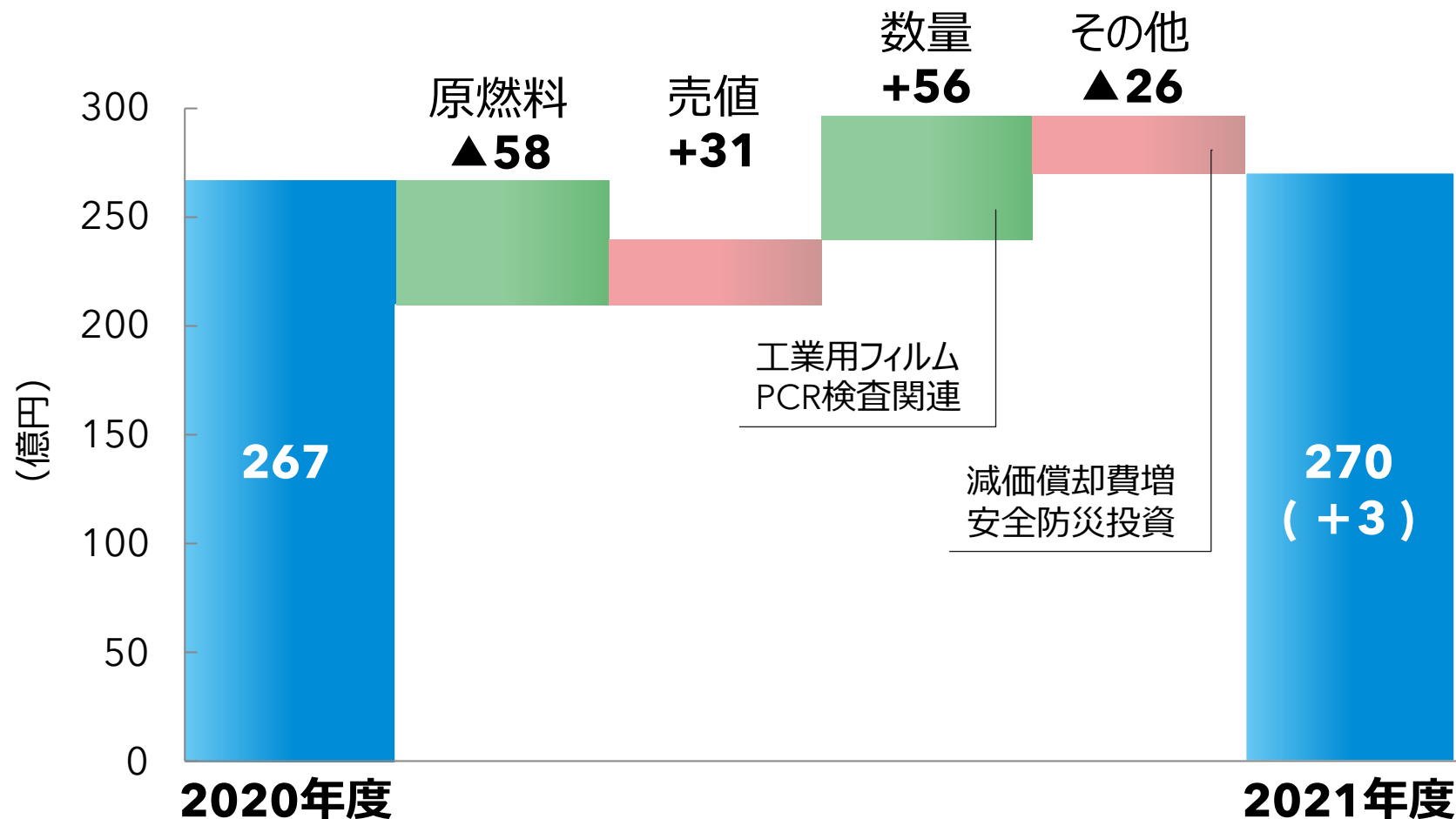
(億円)

売上高	19年度					20年度				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
フィルム・機能マテリアル	295	304	305	367	1,271	363	375	392	398	1,528
モビリティ	117	105	108	109	439	68	82	105	111	366
生活・環境	307	331	317	328	1,284	229	273	271	319	1,091
ライフサイエンス	60	65	64	66	255	63	60	69	79	271
不動産・その他	29	36	36	46	146	31	31	27	29	118
消去・全社	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	808	841	831	916	3,396	755	821	864	935	3,374

営業利益	19年度					20年度				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
フィルム・機能マテリアル	33	40	33	40	146	39	48	56	57	200
モビリティ	3	▲ 7	▲ 2	▲ 1	▲ 7	▲ 7	▲ 6	▲ 4	1	▲ 16
生活・環境	9	15	15	21	59	3	14	12	14	44
ライフサイエンス	9	11	7	11	38	10	6	16	14	45
不動産・その他	6	6	4	9	26	5	6	6	7	23
消去・全社	▲ 8	▲ 7	▲ 9	▲ 11	▲ 34	▲ 7	▲ 7	▲ 8	▲ 8	▲ 30
合計	52	59	49	68	228	44	61	79	84	267

※当年度より報告セグメントの区分を変更しており、20年度実績は、変更後の区分に組み替えた数値としています。

# 営業利益の増減要因



	2020年度	2021年度
為替レート (円/US\$)	106	105
国産ナフサ (千円/kl)	31	44

# 品質の不適切事案の再発防止

## (1) 2020年12月29日リリース

- ・調査主体：当社と顧問契約・委任関係がない弁護士事務所  
社外取締役および監査役から構成されるプラナック事案対応委員会
- ・対象：“プラナック”のUL確認試験時における不適切事案
- ・結果（原因）：事業譲渡におけるチェック体制／監査機能の不備／  
コンプライアンス意識の低さ／内部通報制度の機能不全／人材交流の少ない組織

## (2) 継続調査

(~2021年3月26日)

- ・“プラナック”以外に、6製品においてUL認証に関する不適切事案を確認

**UL不適切事案の調査完了**

## (3) 再発防止対策

**動機／機会／無知／正当化を排除**

- ・「品質保証マネジメント体制」の再構築 **3つのディフェンスライン**
- ・PL/QAアセスメント見直し（抜き取り・抜き打ち検査追加）
- ・風土・意識・教育：人事ローテーション、コンプライアンス教育の見直し など

**品質プロジェクト立上げ**（2021年4月～）

# 安全防災対策

## (1) 火災事故

犬山工場 包装用フィルム製造ラインの一部損失 従業員2名死亡 2020年9月

## (2) 原因 推定原因 (事故調査委員会(社内))

電気ケーブルからスパークが発生。スパークの火花が、近くの可燃物に引火

## (3) 事業影響

包装用フィルムの1ライン使用不可による操業損

## (4) 再発防止対策

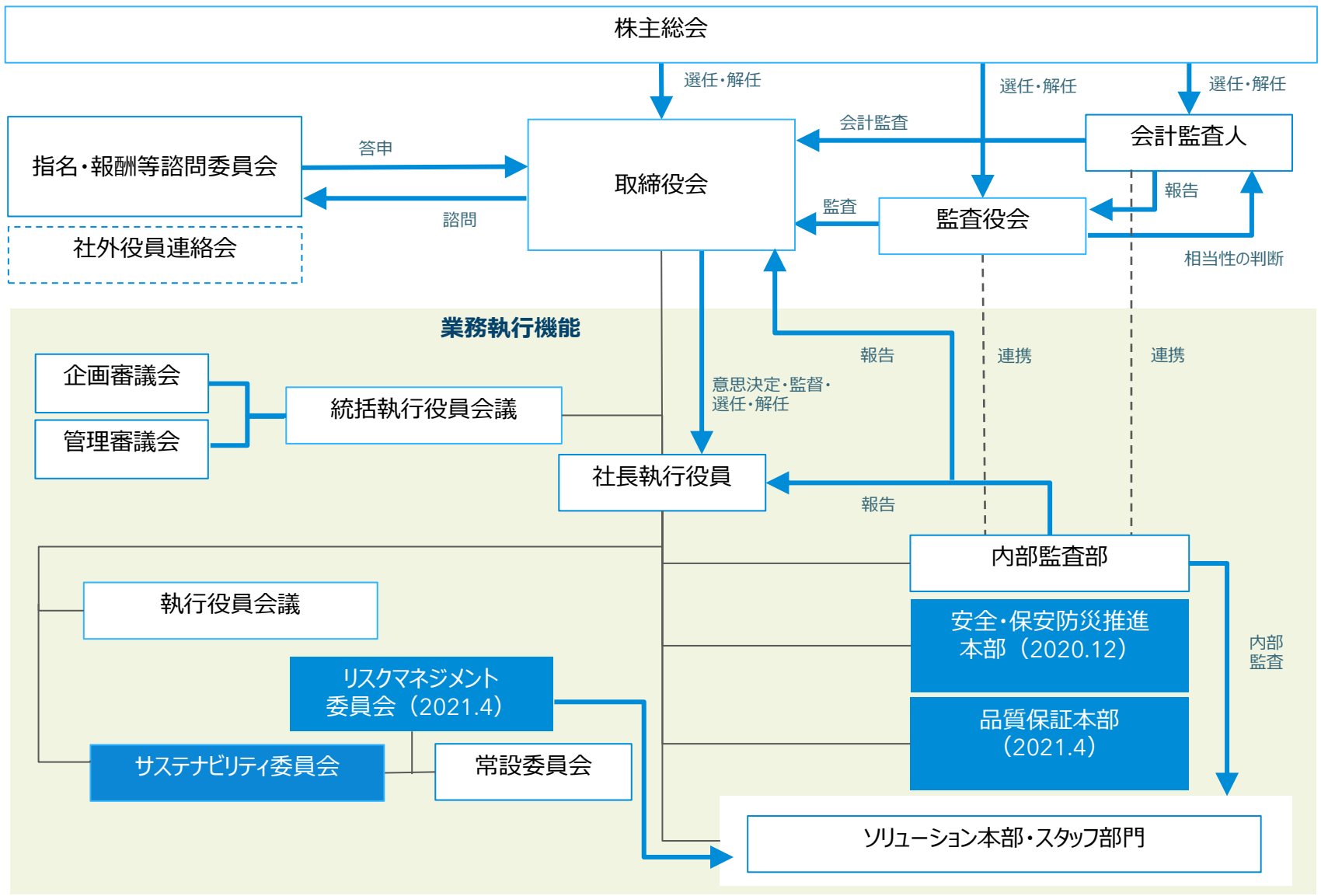
「安全防災マスタープラン」の実行 全社一体の取組み

- ・**安全文化の醸成**：防災教育・研修の充実、防災監査プロジェクト
- ・**仕組みの強化**：工場単位、事業部門単位、本社・工場間、グループ全体でCAPDを廻す
- ・**安全防災投資の加速**：2024年までに80%完了予定

特にリスクの高いダクト内の点検・清掃は 2021年度2Qまでに完了予定

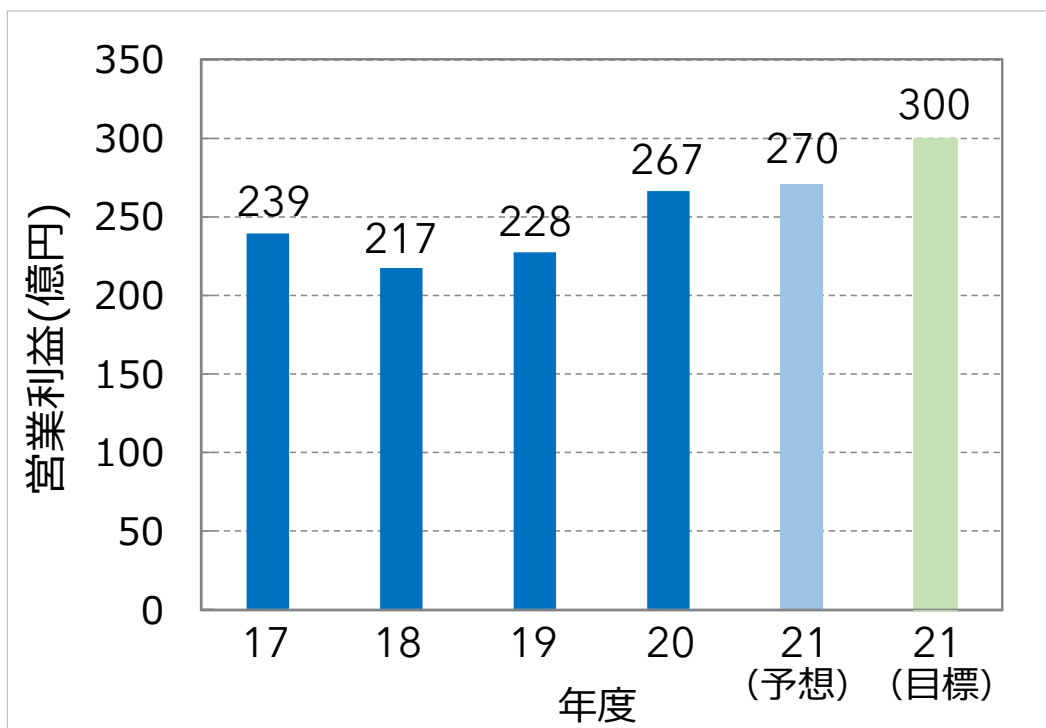


# ガバナンス体制 | リスクマネジメント強化



# 2018年中期経営計画(2021年度最終年)

火災事故に加え、新型コロナウイルス感染症拡大など、前提条件が変化



	20年度	目標
売上高 (億円)	3,374	3,750
海外売上高比率 (%)	33.0	35.0
営業利益 (億円)	267	300
営業利益率 (%)	7.9	8.0
親会社株主に帰属する 当期純利益 (億円)	42	160
ROE (%)	2.3	≥8.0
D/Eレシオ	1.01	<1.0

# 2050年カーボンニュートラル宣言

## 【2030年度 目標】

Scope1,2 : GHG排出量30%削減（2013年度比）

（今後、さらなる検討）

燃料転換、再生可能エネルギー導入等

## 【2050年度 目標】

Scope1,2 : GHG排出ネットゼロをめざす

GHG削減貢献量 > 当社バリューチェーンのGHG排出量

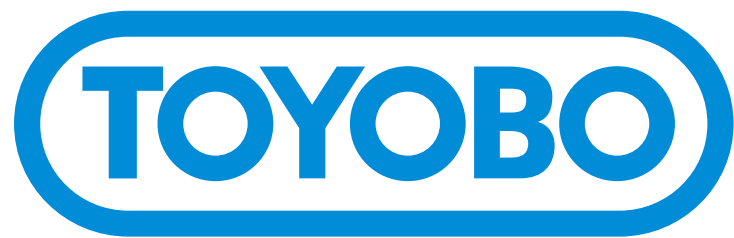
CO<sub>2</sub>分離膜技術、バイオプラスチックなど、各ソリューションの提供等により、カーボンニュートラルの実現に貢献

# ご注意



本資料中の見通しや目標等、将来に関する記載事項は、本資料作成時点において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後の種々の要因によって、本資料の記載事項と異なる場合がありますことをご了承ください。

東洋紡株式会社



All Rights Reserved